

主の公現

2014.1.5

マタイ 2・1-12

新年を迎えた最初の日曜日、教会の典礼は主の公現の祭日を祝います。新年最初のこの主の公現の祭日は、一般の暦に従って過ごしてきた年末年始の休暇の日々が、主の降誕の喜びの中にあつたことを、あらためて私たちに気づかせてくれます。今日祝う主の公現の祭日は、救い主の誕生を示す星の光に導かれてはるばる東の国から来た占星術の学者たちの姿を通して、この喜びへの招きの世界の隅々にまで及ぶ広がり、新年を迎えた私たちの旅路の進むべき進路を示しています。

福音に語られている、占星術の学者たちが東方からお生まれになった幼子イエスを礼拝するために訪ねて来た出来事は、第一朗読のイザヤ書が告げていたことの実現の始まりであると、今日の典礼は私たちに示しています。「国々はあなたを照らす光に向かい、王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。」と言う預言者のことばに基づいて、この場面を描いた絵画の中では、伝統的に、幼子イエスの前にぬかずく占星術の学者たちは頭に王の冠を冠っています。

さらに、今日祝う福音の出来事は、第二朗読のエフェソ書が力強く説いているように、福音の光によって異邦人をイエス・キリストがもたらした救いへと招き入れ、異邦人の世界に広がって行く、新しい神の民の出現を予感させる出来事であることを私たちに示しています。

このような今日の祭日の典礼の中で第一朗読のイザヤのことばは、新しい意味を獲得しています。「起きよ、光を放て」という呼びかけは、今や、母マリアの懷に抱かれて眠る幼子イエスを呼び起こす、父なる神の呼び声です。「あなたを照らす光は昇り、主の栄光はあなたの上に輝く。見よ、闇は地を覆い、暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主が輝き出で、主の栄光があなたの上に現れる」とは、母マリアの胸に抱かれた幼子イエスの上に輝き出した星の光です。その星の光は、人々が寝静まる凍てつく寒さの中、星空を仰いで、

世の行く末を案じてきた占星術の学者たちが見出したあの星の光です。その星の光が、ヘロデの宮廷で彼らがつぶさに見たこの世の闇を超えて、彼らを幼子イエスのもとにまで導いたのです。

預言者が告げた幼子イエスの上に輝き出たあの神の圧倒的な栄光の光は、占星術の学者たちの後に続いて、その光を求めて旅立った、無数の人々の列を照らし、私たちのもとにまで差し込んでいます。この新しい年、私たちも心を新たに、占星術の学者たちから始まった、光を求めて旅立った人々の列に連なって、歩み続けたいと思います。

今日の福音の占星術の学者たちが象徴的に示しているように、私たちの信仰は、イエス・キリストによってもたらされた光を求めての旅と言えます。何故、光を求めて旅立ったかといえば、私たちが生きるこの世の人生が、私たちには闇に覆われていると感じられたからです。光を見出すことは闇の中を歩む者にとって救いそのものです。神への信頼を持たず、自分のうちに深い闇を抱えている者にとって、神への信仰を見出すことは光そのものを見出すことです。そのようにして私たちも、占星術の学者たちのように、光を求める旅に旅立ったのです。

聖書にはそのような旅立ちをした、私たちの先達とも言える人々の姿は、今日の福音の占星術の学者たちに限らず、無数に示されています。

神のことばを受け入れ、生まれ故郷と父の家を離れて、神が示す地へと旅立ったアブラハムは、信仰の父と称えられています。神の大いなる力によってエジプトの地から脱出することが出来た人々は、その旅立ちが約束の地を目指し、神の救いによる過越しの旅である理解したのです。イエスに呼ばれてそのみ跡に従って旅立った弟子たちは、イエスの十字架を超えて、復活の光を体験したのです。パウロを初めとする最初の教会の宣教者たちは、イエスによってもたらされた福音の光を、まだ見ぬ地に住む全ての人々に届けることを自分たちの使命と受け止め、いのちをかけて旅立って行ったのです。

信仰を生きるということは、信じるものに向かって旅立つということです。自らの決断によって、自分のいのちをそれにかけて旅立つということです。神を信じることによって、私たちは自分の責任を放棄するものではありません。私

たちの信仰は、あの占星術の学者たちを導いたように、目指すべき光のありかを示すことによって、私たちに自らの決断によって、自分が目指すものに向かって旅立つことを促すのです。そのようにして旅立つことによって、私たちは初めて、自分の人生を自らの意志によって歩む旅人となる事が出来るのです。この世のしがらみを突き抜けた、私たちの人生の終局目的地である、星の導きを示している光の世界を目指す、自分の人生を歩む旅人となる事が出来るのです。

星の導きと言い、その光を目指しての旅立ちと言う表現は多分に詩的な、抽象的なことばに聞こえるかもしれません。もう少し私たちに引きつけて言うなら、それは、この世の価値基準に縛られた生き方からの旅立ちを意味しています。この世の価値基準が決める幸不幸が、私たちの人生の意味を決定するのではないことを言おうとしているのです。この世の幸せを手に入れる事が出来るかどうかによって、私たちの人生の価値が決まるのではないと言おうとしているのです。この世の価値基準に従って、自分が他人からどのような評価を下されよと、今までの自分が自分自身に対して下してきた評価がどのようなものであったとしても、私たちは私たちに導く新たな光を見出したのです。

私たちは神を信じ、イエス・キリストを信じる者として、あの占星術の学者たちが見出した、イエスの上に輝き、私たちをひきつける、この世の価値観を越えた神からの光を求め、その光が指し示す生き方を目指して歩む信仰の旅人として歩み続けたいと思います。

今年も歩み始めた、私たちの新たな人生の旅が、イエスの上に輝く星の光に導かれた、この世の闇を突き抜ける心躍る旅となることを願って、一年の初めのこの主の公現のミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高